

### ③津和野藩による改修について

目的は一緒であるが著者により2通りの表現がなされているので記してみると次のようになる。

- ①高津、中島の両藩境（津和野、浜田藩）をなす、名越の地に水刳工事をほどこして、そこから両藩境に沿って自領内に河川を新に開削し、これに高津川を新たに流入させた。同時に津和野藩では虫追の地ライコウから高津川を分流させ、飯田の北部を廻って下飯田で更に高津川へ合流する堀川を計画した。これによって高津川本流の水流柔げ、名越の水刳を安全に保持させた。
- ②当時の河口は浜田領にあり、高津川の流れを変えることによって河口を津和野領内に開き、良港を作る事を考えた。(①と同じ)

まず虫追の上の端、新水除から行った。新水除には川底に直径1mもあるような大石を積み少々の洪水にはびくともしないような堅固な大堤防を築き水を花ヶ瀬に向けて方向を変え、内田のライコウを堀切ってこれに一直線に水を流し、飯田の西側に大巾の川を堀ったのである。そして水は飯田の西を通って須子に当り高津浜に向うわけであるが、高津浜へは今の古川のところを浜に向けて大川を堀った。

その結果は虫追の原に大きな変化を来たした大川であった。虫追の前川のあたりは干上って一面の河原となった。川を巨てたところであった河成が虫追と河原つづき畑つづきになって遙か向うの花ヶ瀬を川が流れるようになった。またライコウ及内田川の堀切工事により虫追と飯田、内田と飯田は全く畑つづきであったものが大川の向うに飯田があるようになった。反対に飯田の東側は大川であったものが小川ですむようになった。

大筋では大差ないが部分的表現の仕方がちがったところがある。そのひとつライコウの開削である①では本流の水流を柔げるためとあり、②においては本川そのものの流れを変えたとなっている。これは内務省作成の高津川流域調査書に次のように書かれている。「飯田に至り両股に分る一つは高津村大字須子及飯田の間を過ぎ角井川を合せて右流す即ち右派高津川にして嘉永年間新たに開削せしものとす……」これは津和野藩における元和の改修で現在の派川に流したため堆積したものを開削したものではないかと考えられる。この開削はライコウの開削の中が狭く堰上げたためであろうと思う。

又「飯田及び虫追の間を北流し内田に至り白上川を合わせて東に流る之を正流とす」とあり改修で分派というより本流を変えた方が正しいと考えられる。

又調査書による嘉永年間に現在の本川側を新たに開削したとあるが、大正18年

の検地によれば飯田郷田数 158 町余と記されており、津和野藩の開削のため現在の  
のような畑に変わっていったと考えられる。現在の本川の開削は前述のとおり堆積  
したものを開削したものと考えられる。

### 津和野藩による改修

